

「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

1 取組事例名

日本一の広報紙と育つ、「まちのプロ」職員

2 取組期間

平成 28 年度～（継続中）

3 取組概要

【新規採用職員が広報紙を隅々まで読む広報モニター】

内子町では広報紙の制作に、10 数年前から住民モニターアンケートを採用し、住民の意見や疑問を紙面に反映している。モニターを経験した住民の皆さんからは「広報紙を隅々まで読むようになった」「町の魅力をたくさん知った」「町が好きになった」との声をいただいている。

平成 28 年度から、同様のアンケートを新規採用職員にも依頼。若い住民として、これからの町を担う職員としての意見をいただいている。広報紙のレベルアップを図るとともに、新規採用職員が住民や町政と関わる機会をつくり、職員の成長につなげる取り組みである。

4 背景・目的

【広報紙を通じて「まちのプロ」を育成】

『広報うちこ』は、ふるさとの香りがする広報紙をコンセプトにし、住民に寄り添いながら、その頑張る姿や思いを伝えている。また行政が発信する情報についても、一方的なお知らせが詰まった「お知らせ広報」ではなく、読む人のことを考えて表現やレイアウトを工夫し、内容が伝わる紙面作りを心掛けている。

相手の思いに耳を傾けること、分かりやすい表現を心掛けること、町のことをよく知ることなど、広報紙づくりに必要な要素は、他の部署の職員にとっても必要なことが多い。1 年目の職員が自分の仕事だけでなく、広報紙を通じて広報・広聴の重要性を学び、「まちのプロ」としての意識を育てることを目的としている。

5 取組の具体的内容

①基本は記述式のアンケート

新規採用職員は、毎月発行される広報紙についてのアンケートに答える他、年2回のモニターアンケートの会に参加。「いい印象の記事」「改善点」「気になる点」「行政全般について」など、記述式で広報紙や施策などの良し悪しを回答するため、紙面を隅々まで読んでもらっている。

②毎月アンケートをまとめて、全てのモニターに返送

毎月1回のアンケートは、すぐにまとめてモニター全員に返送。新規採用職員も住民モニターがどのような回答をしているかが分かる。「まとめ」には総務課長、政策調整班長、広報係長の感想やコメントも付けている。楽しく丁寧な返答で、回答者のモチベーションが維持されている。

またアンケートは広聴の役割も果たしている。モニターから「気になった点」や「知りたいこと」があれば、各課の対応や回答を掲載するので、新規採用職員にとってもいい学びの場になっている。

③モニターアンケートを参考に紙面構成を検討

モニターアンケートとは別に、主に若手職員で組織する「広報編集委員会」を毎月1回開催している。アンケートの結果は編集委員会で確認。委員が気になった回答などについて話し合い、次からの広報紙の編集に役立てている。

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

【紙の上での意見交換】

新採用職員にとっては、自分の意見を明確にした上で他人の考えを知ることができるが、対話ではないので冷静に自分自身の仕事を顧みるきっかけになっているようである。自由形式の回答欄もあるので、以前のアンケート回答についてのやりとりなどもある。間接的ではあるが、住民と新規採用職員が意見を交わす場になっている。

7 取組の効果・費用

【費用0円で大きな効果】

各課長の協力で勤務時間内にアンケート回答をしている。町民モニターは1年間で、一人1万円の謝礼をお渡ししているが、新採用職員モニターはほとんど費用が掛かっていない。

新規採用職員からは「住民と話すときに平易な言葉を使うよう心掛けている」「傾聴の大切さを学んだ」などの感想があった。また最初は自分の仕事で精一杯になりがちだが、「〇〇課の職員ではなく、町の職員という意識が高まった」という職員もおり、「まちのプロ」という意識の醸成に大きな効果があった。

【『広報うちこ』が日本一に】

モニターや編集委員会をはじめ、多くの人の手によってつくられている広報紙が、平成30年全国広報コンクールで日本一となる内閣総理大臣賞を受賞した。住民の皆さんと職員が共に成長を続けていることが、紙面だけでなく、まちづくりにも生かされている。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦勞した点）

アンケート自体が新規採用職員の成長につながるよう、広報紙自体の品質を維持することが重要。新規採用職員にとっても負担になるため、現在は1年間のみとしている。

9 今後の予定・構想

まだ3年目であるが、10年・20年と続けることで、広報・広聴マインドを持った「まちのプロ」職員が増えていくことが期待される。今年度からはSNSで情報発信をする予定なので、新規採用職員にも身近な話題を提供してもらい、発信力の向上にも努めたいと考える。文章の書き方や効果的なチラシをつくる方法など、職員が広報・広聴マインドを学ぶ機会も増やし、職員全員が町の魅力を発信できるような「まちのプロ」集団を目指す。

10 他団体へのアドバイス

広報紙づくりに関わることは、文章力や企画力、情報発信力の向上につながります。制作自体を外部委託する市町もあり、広報紙に対する考え方はそれぞれだと思います。しかし、小さな町の職員は住民との距離も近く、さまざまなことを求められます。そのために職員自体が町を知って、好きになることが大切です。広報紙が住民とまちをつなぐ1つのツールと考え、内容を充実させるとともに、「まちのプロ」になる職員を増やすための1つの機会として、広報紙を通じた職員育成やまちづくりを検討してみてはどうでしょうか。